

すくすく のびのび いきいき

平成26年11月 第7号 発行：赤穂市教育委員会 ☎0791-43-6857

第2回 赤穂市「いじめ・暴力追放」市民大会

〔とき〕平成26年8月17日 午後1時30分開会 〔ところ〕赤穂市文化会館 大ホール

平成24年7月に発生した「事件」から2年が経過しました。その間、赤穂市教育委員会は、外部専門家5名による「第三者委員会」（略称）からの提言を実現させるため、学校園所や保護者、地域とともに、具体的な取組を進めてまいりました。

提言は、「子どもの心の安定と居場所づくり」「大人からの積極的な関わり」「子どもの願い、不安、心の揺らぎへの寄り添い」など、大人自身が変わることと、「子どもの力を生かした仲間づくり」「気づき、考え、主体的に行動する力の育成」を求めています。

昨年の第1回市民大会は、子どもと大人の「きずな」を取り戻し、子どもたちの可能性を引き出す基盤づくりをめざしたものであり、「いじめ・暴力追放」の願いは、子どもたちの純粋で真剣な態度を通して、私たち大人の心に響き、その後結成した「生徒交流会」の活動へと大きく流れ始めました。



＜第2回大会 グループ討議の発表より＞

今年の第2回市民大会は、この「生徒交流会」がめざすものを、活動報告やシンポジウムでの意見交換、大会宣言、そして、中学生による大会運営などを通じて、参加者の私たちに提案するという位置づけで開催しました。子どもたちの動き出した「流れ」は、周囲を巻き込み、さ

らに求心力を高め、「生徒交流会」の活動を通して、多くの仲間を引きつけ、さらに大きなうねりとなって、学校園所や地域全体に自分たちの願いを届けていく底知れぬエネルギーとなっています。



＜第2回大会 シンポジウムより＞

子どもたちは、会場の多くの大人に対し、気遣いながらも、思いを素直に表現し、立ち振る舞い、会場全体を「いじめ・暴力追放」への願いと「生徒交流会」の活動に見事に引きつけていきました。参加者の多くが、子どもたちのことば一つ一つに自分を振り返り、考え、次の行動を思案していたことは、参加者の感想文や報告書で共通する内容でした。

この市民大会は、子どもたちが全ての立場や課題を背負って、いじめ・暴力追放を実現する「答え」を出す大会ではありません。さまざまな課題を持ち、異なる生活環境にある私たち大人が、子どもたちの声や願いを真摯に受け止め、自分を見つめ直し、自分自身の「答え」を引き出し、行動に移していくきっかけをつくるのが目的です。

私たちは、それぞれの持ち場で子どもたちの願いを伝え、行動を起こしていかなければなりません。

その先導として、今、子どもたちは動いています。

大会宣言

「いじめ」、いじめとはどのようなものでしょうか。
いじめは人の体だけでなく、心も傷つけます。ボロボロになった心と体は、時に人を死へと追いやることもあります。一昨年、赤穂市内では、いじめ、暴力が問題になりました。同じ過ちを繰り返さないためにも、一人一人がこの問題に向き合い、みんなでお考え、無くしていかなければなりません。

私たちは赤穂市の各中学校でアンケートを行うとともに、通信を発行するなど、みんなにとって安全な学校や環境をつくるために取り組んできました。さらに、いじめ防止の標語を中学生全員が作り、良い作品を中学生だけでなく、市民のみなさんにも伝えていくことになりました。

しかし、いじめをなくすことは、簡単にできることではありません。一人一人の思いやりと勇気が、みんなを笑顔にし、いじめをなくす力になっていきます。そんな力が集まって「やさしい集団」となり、いじめをなくしていくことができると私たちは信じています。

仲良くみんな協力し合おうやさしさ。

一人一人がいじめについて取り組んでいくやさしさ。

私たちはいじめをなくしていくために、みんなで支え合っていくことで強くなる「仲間のカ」が必要。そして、自分のことを大切にするとともに、相手と周りのことを考えて行動できる「やさしい集団」になっていきます。

そんな「やさしい集団」作りのためにも、一人一人をもっと大事にし、心配な人がいたら、放っておかず、笑顔で声をかけます。

私たちは、みんなが幸せでやさしさあふれる学校で学びたいのです。そんな学校をつくる主役は、私たちです。私たちは、いじめや暴力を他人事にせず、一人一人がいじめや暴力を止めるという高い意識をもつことで、幸せでやさしさあふれる学校をつくることができます。

私たちは、「仲間のカ」を信じ、赤穂市からいじめや暴力を追放する取組を進めることを宣言します。

平成26年 8月10日

児童・生徒代表 赤穂市立赤穂東中学校 安藤 友希

ソフトテニス競技で対戦！ 西尾市・赤穂市友好親善都市スポーツ交流会



9月27日(土)・28日(日)の2日間において、吉良上野介の出身地である吉良町を編入合併した愛知県西尾市から、中学生のソフトテニス選抜選手団を迎えて「西尾市・赤穂市友好親善都市スポーツ交流会」が赤穂城南緑地テニスコートで行われました。

今回のソフトテニス競技では、西尾市から吉良中学校など9校、赤穂市からは全5校で、両市とも男女各9ペアが参加し、男女別の変則リーグ戦で熱戦を繰り広げました。

試合結果は、男子の部 赤穂市16勝、西尾市11勝。女子の部 赤穂市23勝、西尾市4勝という結果で今回の交流試合は、赤穂市の優勝となりました。

平成8年から始まり今回で15回目となった様々なスポーツ交流を、これからも末永く続けていきたいと思えます。

なお、次年度はミニバスケットボール競技の交流会を西尾市で開催する予定です。

有年考古館で特別展と親子体験教室

7月18日から9月15日の会期で、特別展「蟻無山古墳の時代—播磨に渡来人きたる—」を開催しました。今年の特別展は、有年原にある県指定史跡で千種川流域の代表的な古墳である蟻無山古墳とその出土遺物に焦点をあて、播磨の古墳時代中期の社会について考えました。

展示では、蟻無山古墳出土の初期須恵器や馬形埴輪をはじめ、近畿各地から同じ時代の関連資料を多く集めて展示し、充実した資料と「うにゅちゃん」も登場したわかりやすい解説で好評を博しました。期間中は約1,200人の来館者があり、来館者の皆さまから「楽しく歴史の勉強ができた」、「ウェルカム精神」で「たくさん説明してくれた」とのお声をいただきました。

また、この特別展の記念講演会として7月26日にたつの市教育委員会の岸本道昭先生から「蟻無山古墳群を考える—播磨の中期古墳時代」、8月9日には花園大学文学部教授の高橋克壽先生による「倭の五王と地域豪族—古墳造営にみる

地域支配」と題しての講演会を有年公民館で開催し、市内市外からたくさんの方のご参加をいただきました。

考古館でのもう

一つの恒例行事、夏休み親子特別体験教室。考古館では学校の長期休業にあわせて、親子で歴史文化を体験できる教室を開催しています。今回は夏休み期間中に、勾玉づくり、銅鐸づくり、アユ掴み体験の3つの教室を行いました。注目は、前回からの新たなメニューとして行っている銅鐸づくりで、実際に金属を溶かして型に流し込んで作る本格仕様。弥生時代の銅鐸がどのように作られたのか、手軽に体験することができます。定番の勾玉づくりでは、子どもたちの個性あふれるユニークな勾玉が完成しました。

体験教室は、これからもいろいろなメニューで開催いたしますので、ぜひご参加ください。



保育士現場復帰支援へ 有資格者向け研修会開催

保育士の確保が課題となる中、赤穂市教育委員会では、資格を持ちながら、保育所で働いていない「潜在保育士」の現場復帰を支えようと、3回コースで研修会を開催しました。20代～60代の有資格者22人が参加しました。

第1回目 7月25日

保育所保育指針から保育所の役割や目標について講義を受けた後、公立の保育所の保育士と乳幼児とのかかわりの姿など、映像を通して視聴しました。



研修会終了後のアンケートでは、「保育所での生活の様子を映像で見ることができ、一段と保育所で働きたいという気持ちになりました。」「保育の現場に戻りたいという気持ちが強くなりました。」「一度も保育の仕事に就いたことはないが保育の仕事に興味を持つことができ、前向きに夢だった保育士について考えていきたい。」「このような研修会があると不安なこともいろいろ聞くことができとても良い機会でした。」など、現場復帰への意欲が感じられる意見が多く聞かれました。

第2回目 8月29日

現役保育士4人から、保育士になろうと思ったきっかけ、保育士になって良かったと思うとき、職場の雰囲気などの報告を聞きました。また、心地よいリズムにあわせて、わらべうたを楽しんだり、即役立つ感覚教材（パズルボックス）作りも体験しました。



現役保育士からはそれぞれに、エールを含めた内容が話されました。「私は結婚後、現場復帰し、とても不安でしたが、困っても先輩や仲間が助けてくれました。」「毎日、子どもから元気をもらっています。」「子どもの成長が大きな喜びにつながっています。」最後に主任の保育士から、「決して一人ではないですよ。困った時にはみんなが助けてくれます。一緒に頑張りましょう。一步踏み出してみましょ。待っています」と呼びかけました。

参加されたみなさんは、保育士の生の話に感動し、「わらべうたや手作りおもちゃは自分の子どもとも遊べるので嬉しい。」と笑顔いっぱいの表情が見られました。



第3回目 体験実習（希望日）

希望された7名の方がそれぞれ希望する保育所で、体験実習を受けました。



研修会終了後は、就労に向けての相談コーナーを設けました。ほとんどの参加者が相談に積極的に、「現場復帰に向けて少しの時間から働いてみたいのですが、大丈夫でしょうか。」「現場経験がなくても働けますか。」「来年もこのような研修会がありますか。あれば是非参加したいです。」等、様々な前向きな相談がありました。

今回の研修を修了し、就職を希望された3名の方が、すでに元気に保育所で勤務されています。

今回の研修を修了し、就職を希望された3名の方が、すでに元気に保育所で勤務されています。

赤穂市教育委員会では、保育士としての就職を支援するため、有資格者を対象に、就職に向けた研修会の開催、保育所での就労に対しての相談等を実施するなど、今後も潜在保育士の現場復帰に向けた事業を実施していきます。

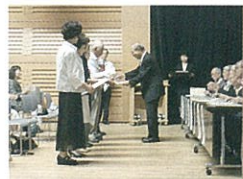
力作の競演！ ～2014赤穂市美術展～

9月25日から28日まで、文化会館及び図書館を会場に赤穂市美術展が開催されました。

文化会館では、278点におよぶ日本画・洋画・書・彫塑工芸・写真の力作を展示し、図書館では、招待作品1点、委嘱14点、無鑑査33点を展示し、多くの皆さまにご観覧いただきました。

28日には表彰式を開催し、市長賞など各賞が贈られました。

(受賞者氏名及び作品名は赤穂市ホームページをご覧ください。)



□お詫びと訂正

教育委員会だより第6号に掲載いたしました「第13回赤穂市小学生陸上競技大会」の記載に誤りがありましたので、お詫び申し上げます、下記のとおり訂正いたします。

【男子】5年4×100mR

誤 城西（那木・後藤・今井・山本）

正 城西（那木・後藤・今井・山本）